

議長（山本 陽一郎君） 次に9番、山口一成議員。

9番（山口 一成君） 何か1年間空白があったような気がして、ピント外れのことを言うかもわかりませんが、お許し願いたいと思います。議長が簡潔にということをおっしゃったので、簡潔な答弁も、またお願いしたいと思いません。私も簡潔に言います。

第一番に岡野教育長に「おめでとう」と僕は下からは言いましたが、マイクを通して言うのは今初めてでございます。岡野教育長、本当におめでとうございます。

というのは、岡野教育長が新卒で神田へ来た時に、私と相担任したんですよ。だから私の言うことを聞いて彼は歩いてきた。けれども歩く道は違っておった。けれども彼がきちっと自分でやろうということは自分で率先してやった。そういうような中でどういうことかということ、孔子の言葉なら、和して同ぜずという言葉やと僕は思うんです。和、平和の和です。和して同ぜず。平和であったけれども、私たちは本当に和を大事にせなあかんけれども、山口のまねはせんぞというところが彼にはあったというふうに、私はほめておきます。それが第一番でございます。

それで1問目に移りますが、平成21年から小学校5～6年の教科に英語が必修化されますが、教科の中では、5年生や6年生の子どもたちが無免許の指導でよいのかなというように私は思います。その1点と、2点目に学力テストのことについては、きょうの新聞にデカデカと、朝日新聞、中日新聞にもほかの新聞にも出ておりましたので、その考えを教育長にお聞きしたいと思いますので、よろしくご答弁のほどお願いいたします。

議長（山本 陽一郎君） 岡野譲治教育長。

教育長（岡野 譲治君） 山口議員の大変元気なご質問で、私も大変戸惑っておるところがあるんですけども、きょうの来る日を心待ちにしておりましたし、大先輩からのご質問ということで大変恐縮をしております。

山口議員の教育施策についてのご質問にお答えをいたします。

1点目の、2011年から小学校5年・6年の教科に英語が必修化されるが、教科の無免許指導でよいのかということですが、ご承知のとおり、今回の学習指導要領の改定により、平成23年度から小学校5・6年生に、英語化ではなく「外国語活動」が新設をされます。

この外国語活動の導入に関しましては、平成20年1月の中央教育審議会答申で、社会や経済のグローバル化が急速に発展した背景から、学校教育において外国語教育を充実することが重要な課題の一つになっているが、現在、外国語教育は中学校から始まっており、あいさつや自己紹介など、初歩的な外国語も中学校で初めて接することとなる。こうした活動は、むしろ小学校段階での活動になじむものと考え

る。そこで、小学校段階で外国語に触れたり体験したりする機会を提供することにより、中・高等学校においてコミュニケーション能力を育成するための素地をつくることを目的に、外国語活動を導入すると述べられています。

このように外国語活動は、中学校段階の文法等の英語教育を前倒しするのではなく、児童が積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、言語・文化に対する理解を深めることを目標にしており、その目標や内容から、教科のような数値による評価にはなじまないと考えられ、教科としては位置づけをされてお

りません。一方、この導入に向けて、小学校教員が適切に外国語活動を指導できるようにするために、国により条件整備が進められております。平成20年度及び平成21年度の2カ年にわたって、各小学校で中核となる教諭を2名確保するために、中核教員研修が実施をされました。さらに、その受講者が平成20年から平成22年度の間、各小学校の全ての教諭に対して、1人当たり2年間で30時間程度の校内研修を実施することとなっております。

さらに法においても、「教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令」が、平成21年4月1日施行されたことによって、小学校の教員免許状を持つ者か、中学校または高等学校の外国語の免許状を持つ者であれば、外国語活動の授業を一人で行うことが制度上可能になっております。

次に2点目の学力テストについての考え方についてでございますが、既に平成19年度から平成21年度まで3年間にわたって悉皆調査として、全国学力・学習状況調査が実施をされました。平成22年度からは、抽出調査として実施をされる予定であります。

この調査は、文部科学省が学校の設置管理者等（教育委員会）の協力を得て、国が全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的に実施をしております。

東員町においても児童生徒の学力や学習状況を把握し、今後の児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てるために、全国学力・学習状況調査を実施をしてきました。

具体的には、東員町教育研究委員会において、東員町全体の結果から弱みを分析し、つきたい力を明らかにするとともに、その力をつけるために、指導方法の工夫・改善について冊子にまとめ、各校に配付をしてきております。各校におきましては、その冊子を活用しながら、指導方法の工夫・改善に努めてまいっております。

今後も児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てるために、全国学力・学習状況調査の実施を考えておりますので、ご理解を賜りますようお願いを申し上げます。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君）          山口一成議員。

9番（山口 一成君）          指導要領のことについては、私は新旧の比較表を持っておりますので、今、教育長が言われた英語ではない、外国語なんやという話がありますが、確かに外国語と書いてあるんです。けれども230ページかな、英語を取り扱うことを原則とすると書いてあるんですよ。そのことについてどう考えますか。

議長（山本 陽一郎君）          岡野譲治教育長。

教育長（岡野 譲治君）          東員町も英語を使っていきたいなと思っております。

以上です。

議長（山本 陽一郎君）          山口一成議員。

9番（山口 一成君）          教師の負担が大変増になっておるとのこと。中学校との連携もあるでしょう。けども現場は不安を抱えておることは事実なんです。授業は週1コマですが、現政権はもう廃止しようとしておるんですよ。教育長、どうですか。

議長（山本 陽一郎君）          岡野譲治教育長。

教育長（岡野 譲治君） お答えをします。

現政権が英語活動を廃止しようとしているということを言われているのですか。

9 番（山口 一成君） はい、そうです。

議長（山本 陽一郎君） 私どもは学習指導要領にのっとり、その意向に対して、既に東員町では英語活動を具体的にやろうとしております。基本的には指導要領に沿った形で進めていきたいなと思っておるんですけれども、現政権がどうこうというのでは、ちょっと私は把握はしておりませんが、東員町としては新しい学習指導要領にのっとり、それに向けて英語活動を積極的に進めていきたいなということを思っております。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 山口一成議員。

9 番（山口 一成君） ALT というもの、英語で書いてあるので皆さんもわからんと思いますが、アシスタント・リーディング・ティーチャーというのだそうです。昼食時に話し合いをどうしてもせんなんという学校が多いんですよ。5～6時間目に入っておるんです。給食も先生はゆっくり食べられない。子どもとゆっくりと給食を食べながら、給食の後も一緒に話し合いをしたいというような現状なんです。けれどもそれができないということについて、また6年生の担任の持ち手がないという声も聞いておるんです。そのことについてどう思いますか。教育長。

議長（山本 陽一郎君） 岡野譲治教育長。

教育長（岡野 譲治君） 学校の教員が給食の時間も使って子どもたちの話を聞いたり、いろんなことをやっております。これは実態であります。休憩時間、休憩時間も取れないというような状況の中で、一生懸命やっていたているのは十分認識をしております。ただ、英語の活動が入ってきたから、そのことが大変ふえたのかというのは少し違うのではないかなと。本当に慢性的に抱えている問題ではないかなと思っております。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 山口一成議員。

9番（山口 一成君） 教育長は現場の声をまだ十分把握されていないのだと私は思うんです。皆さん方も知らんと思いますが、英語 という本が文部科学省から各個人に配付されているのです。（山口議員本を示す）これは5年生に配布されている本なのです。これは英語ノート として6年生に配布されておるものなんですよ。今の政権は、もうこれを配りませんと言っておって、予算づけをしていないのです。だからそのことを教育長に聞いておるわけです。そんなことを先ほど知らない。指導要領に沿ってやっておるんやというだけではなしに、先を見通した教育行政をしてほしいというふうに思いますので、お答えを願いたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 岡野譲治教育長。

教育長（岡野 譲治君） 東員町の場合には、平成23年度から英語活動が実施されるということでありまして、平成20年度から学校によりましては、もっとその前から英語活動というのは部分的には入れておりました。平成20年度から町内の小学校で何校かが英語活動を取り入れていきました。平成21年度からは、小学校6校すべての学校で英語活動を週1時間入れていこうという形になりました。

その中では、先ほど山口議員がお示しになりました、文科省が配られている英語ノート、CD等を参考にしながら、また全国とか三重県内でも、いろんなところで英語の実践がされております。そして単元とか教材とかというものは、それぞれの選考されたところの教材とか指導方法の改善というのが、かなりの部分あります。そういうのを手に入れながら、自分の学校ではどういうものが一番いいのかということで、取り組みを進めてもらっております。

英語ノートが配られるか配られないか、具体的にちょっとあれなんですけども、ある小学校の英語活動というので、この1年間を使って、もう既に単元構想というか、どういう形で英語を進めていくかというような試案みたいなものが、それぞれの学校でつくられようとしております。この中身なんですけれども、先ほども申しましたように、中学校の文法をこねくり回すような形ではなく、ALTと担任がおりまして、そこでゲームをしたり、歌を歌ったり、耳から聞いて自分たちでしゃべったり、ゲームをしたり、活動したりというようなことが中心になっております。

私も現場にありました時に、学校の先生たちに英語の得意な先生もおれば、得意じゃない先生もおりますので、そういう資料を集めて、そしてできる限り負担のかからないように、2年間でゆっくり本当に生の英語を耳から聞くこと、楽しみながら聞くこと、そういうことを重点的に進めてくださいという形でやっております。

今東員町のそれぞれの学校は、そのような方針の中で成績がどうこうとか、将来英語というのでなく、とにかく英語というのは楽しいんだよと、ALTの人と実際にしゃべってみて、自分からしゃべることがやっぱり大切なんだよということを、体験的に理解をしてもらえればいいなと思って、英語活動を進めております。

以上です。

議長（山本 陽一郎君）          山口一成議員。

9番（山口 一成君）          平成22年度のこの間もらいました予算書に、アシスタント・リーディング・ティーチャーの派遣事業予算があるんです。今年度は1,429万円計上されております。さかのぼって言いますと、平成17年度は423万8,000円、平成18年度は409万1,000円、平成19年度は452万9,000円、平成20年度は784万8,000円、平成21年度は1,302万6,000円、今年度は1,429万円計上されておるのです。年々上がっておりますが、その説明をしてください。

議長（山本 陽一郎君）          岡野譲治教育長。

教育長（岡野 譲治君）          ALTというのは一番最初、中学校に1名ついと記憶をしております。それが東員町には2校の中学校がございますので、一中、二中1名ずつにつくようになりました。

そして昨年度からですけれども、小学校の英語活動を、東員町が6校で統一して進めるということですので、昨年度からもう1名、小学校や保育園・幼稚園を主に回るALTを1名配置をしていただきました。ですからお金がふえたということは、そのようにALTの配置を3名していただいたということにつながってくるものと思っております。

もう1つ言わせていただければ、他の市町でいくなれば、小学校の英語活動をしたくても、生のALTをなかなか呼べないとか、中学校の空き時間にたまに来てもらうというような状況から見れば、東員町は大変そのことにお金をかけていただきました。恵まれているなと私は思っております。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君）          山口一成議員。

9番（山口 一成君） 金額が上がったことについては言いましたが、去年ですか、途中からA L Tの方が帰っていかれたというようなことを聞いておりますが、そのことも決算報告の中で出てくると思いますが、そのことを少しつけ加えておきます。

次に負担金というのが書いてあるんですよ。A L Tに負担金、私調べましたら平成17年が22万4,000円、平成18年が10万1,000円、平成19年度が25万3,000円、平成20年度が9万7,000円、平成21年度が48万7,000円、今年は36万8,000円なんです。この負担金とは何なんですか。

議長（山本 陽一郎君） 岡野譲治教育長。

教育長（岡野 譲治君） A L Tの派遣事業に関しましては、私どもが直接にA L Tを雇用するという形ではなくて、J E Tという組織があります。そのJ E Tから紹介を受けて、ここに来てもらうということになります。それでJ E Tが行っている保険とか紹介料とか、もろもろのものを含めて、負担金として納めさせていただいているということがあると思います。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 山口一成議員。

9番（山口 一成君） J E Tというのは何ですか。わかりません。

議長（山本 陽一郎君） 岡野譲治教育長。

教育長（岡野 譲治君） 我々J E Tと通称で言ってますけれども、また調べて答えさせていただきます。

議長（山本 陽一郎君） 山口一成議員。

9番（山口 一成君） この間、行政報告書をもったんです。その87ページにこんなことが書いてある。これは教育長が書いたものではないと思いますけど。国際化への対応として、本年度も外国語指導助手2名と契約し、中学生の英語教育の充実に努めるとともに、新学習指導要領に新設された小学校の英語活動について研究を進めました。その後です。さらに幼稚園・保育園にも派遣し、英語に親しむ活動を充実する。幼稚園や保育園までもA L Tを派遣してやるという、そういうむだなことをせずに、小学校・中学校だけでいいのと違いますか。

議長（山本 陽一郎君） 岡野譲治教育長。

教育長（岡野 譲治君） これはこちらから派遣したということよりは、幼稚園や保育園の先生が、英語をしゃべる人に接したいということがございまして、何回か行ってもらったということでもあります。英語をしゃべるだけではなくて、自分の国の生活とか遊びとかいうものを幼稚園の子どもたちにお話をし、そしてなおかつ英語の歌を歌ったり、楽しい時間を過ごしたと聞いております。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 山口一成議員。

9番（山口 一成君） 英語のことは次に置いておいて、学力テストのことについて質問を変えます。

先ほども言いましたように、今朝の朝刊にはデカデカと学力テスト73%、これは伊勢新聞なんですけど、抽出外とかそんなことが書いてある。三重県は55.4%と書いてあるんですけども、東員町はそのことについてどうであったかということをお尋ねしたいと思っております。

けれども40%が対象ということですから、40%の予算しか国はつけなかったのかなというふうに思うわけなんですけど、町内の各小中学校の現状をお答え願いたいと思います。

議長（山本 陽一郎君） 岡野譲治教育長。

教育長（岡野 譲治君） 具体的な校名は省かさせていただきますけれども、東員町の場合には現在小学校で2校、中学校1校というのが抽出をされております。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 山口一成議員。

9番（山口 一成君） 学力テストについては今聞きましたが、学力テストの結果については、私がうわさで耳にしたところによりますと、東員町は大変優秀な成績であったということでもあります。このことは教育長をはじめ、小学校・中学校各先生方の努力でレベルよりも上であったということに、私は喜びの言葉を申し上げたいと思うわけです。



サンプル方式は僕は当然だと思っんですね。年50億円使ったんですね。文部科学省は3年間で150億円使ったんです。ですからこの問題は競争や序列化につながると僕は思っんですけれども、そのように小学校2校、中学校1校になってきたということは、その学校の競争や序列化に問題があっって、このようになってきたのか、この小2、中1というのは、要は40%の対象の中に入っっておっったのか、または希望して入られたのか、そのことをお聞きしたいと思っます。

議長（山本 陽一郎君） 岡野譲治教育長。

教育長（岡野 譲治君） 抽出ですので、その抽出方法は実施要項の中にありまして、どこどこがどうこうではなくて、全国での誤差が出ないようにという形の形式的な抽出であります。ですから東員町内で抽出された学校が、その場面で希望を出してとかいうのは全くありません。勝手にと言ったらあれですけども、国の方からこういう学校ですという指定がありまして、東員町としては学力テストに協力するという形であります。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 山口一成議員。

9番（山口 一成君） これは当たり前のことであっって、問題が毎年違っんですから、抽出されようがどうしようが、同じ問題であれば比較対象できるんですよ。けれども問題が違っんですから、比較対象することができないのですよ。

それと同時に採点するのは一業者なんっですね。一業者が採点するのです。それは業者のもうけに、文部科学省が屈しておるんだというふうには僕は思っんですが、それが入札であろうがどうであろうが、そのことについては言っませんけれども、2校であり、1校であるということについては、私はとやかに申しませんけれども、毎年このようなことをやらない、または英語ノートは配らない、こう現政権は言っておるのですから、現政権のとおりに従ってやっていただきたいなと思っんですが。

最後に教育長にもう一つ申し上げます。

この間言われた所信表明の1ページにこんなことが書いてあるのです。21世紀型学力育成に向けて取り組みを強化します。21世紀型学力育成って何ですか。お答え願ったいと思っます。これは最後ですから。

議長（山本 陽一郎君） 岡野譲治教育長。

教育長（岡野 譲治君） 山口議員のご質問にお答えをいたします。

私が考えております21世紀型学力というのは、基礎基本の上に立った思考力・判断力・表現力、いわゆる活用力と言われているものを重視した学力を私は考えております。もう少し詳しく言うならば、PISAが規定している学力とありますけれども、よりわかりやすくするためには、思考力・判断力・表現力を含めた活動をする力というところを大事にした学力であると思っております。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君） 山口一成議員。

9番(山口 一成君) 今言われた思考力とか読解力とかということの中で、各校がなされております何とか学習という国語の授業がありますね。PISAですか。県の指導者や、または三重大の先生方の反省点の中で、特に読解力、そういうものが劣るといようなことを言われておるんですが、そういうことはありませんか、どうですか。

議長（山本 陽一郎君） 岡野譲治教育長。

教育長（岡野 譲治君） 三重大の先生が、PISAを取り組むことによって読解力が劣るようになるということの意味されているのですか。PISAを取り組むことによって読解力が落ちているということですか。

9番(山口 一成君) それにもっと力を注がないとあかんということです。

教育長（岡野 譲治君） そうですよ。わかりました。

私どもは全国学力状況調査と、東員町内で平成17年度から行っておりますCRTという学力調査等があります。その中でどういうところに、今東員町の子どもたちに強みがあり、どういうところに弱みがあるかというのを常に分析しながら、明日への実践に、それぞれの学校の先生たちが生かさせていただいていると思っておりますが、東員町だけでないかもわかりませんが、基礎基本の部分よりは、国語の分野で言うならば、先ほど私が申しました思考する・判断する・表現するという部分は、少し力をつけていかなければならないなということを思っております。

ですから東員町教育研究会では、保・幼・小・中の先生たちと一体になりながら、その部分をどのように力をつけていくかということで、今精一杯頑張っていた

いておると思います。このことは漢字を覚えて漢字を書けるようになるというプラスアルファの部分があります。その漢字をどのような場面で使い、そしてどう表現するかという形になってますので、繰り返しそういう力をつけるために努力をして、何年後かに力がつけばいいなということを思っておりますし、教育委員会としても、そういう先生方をぜひ支援をしていきたいなと思っております。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君）          山口一成議員。

9番（山口 一成君）          教材さえよければ読解力はもっとついていくと思うんです。そのことを現場の先生方や校長先生方にお伝えください。私の実体験からそのことを言っておきます。

最後と言っていたのですが、もう1つ、きょうもらった平成22年度の新規予算の28ページに、学力調査委託料からお金が何やら引いてあるんですね。これは何ですか。28ページ、29ページに学力調査委託料からこれだけ引くと書いてあるんですよ。学力調査の委託料から何でこんなものを出すのですか。

議長（山本 陽一郎君）          通告から外れておりますので。

9番（山口 一成君）          通告から外れておりません。（山口議員演台をたたく）学力委託料について、私、質問をしているのですから。

議長（山本 陽一郎君）          予算書の内容は、今後、委員会等で質疑をしていただきたいと思います。

山口一成議員。

9番（山口 一成君）          次に移ります。

次に北勢線のことについて言いますが、北大社を前町長の時に廃止されました。コミバスも、東西線はこれをなくすというように決めました。旧稲部地区の住民の移動手段というのが奪われてしまいまして、仮称猪名部神社の猪名部駅を旧大木駅付近に設置することはできないかということを町長に質問します。

よろしくご答弁お願いします。

議長（山本 陽一郎君）          佐藤均町長。

町長（佐藤 均君）          山口議員の北勢線についてのご質問にお答えをいたします。

北勢線につきましては、ご承知のとおり、平成12年7月に近畿日本鉄道が不採算路線であることから廃止表明がなされました。

これを受けまして、地域の公共交通として行政・自治会・PTAなどが一体となり、存続運動を展開し、三岐鉄道株式会社が平成15年4月から引き継ぎ、存続することとなりました。

三岐鉄道に引き継ぐに当たり、公的資金を投入する観点から、利用者からのアンケートで寄せられた声を集約するとともに、山口議員も委員として参加いただきましたのでよくご存じのことと存じますが、関係市町の住民の方も多く参加いただいたワークショップにより、北勢線活性化基本計画を作成し、事業展開を行っているところでございます。

計画では、駅舎の整備・駐車場の確保・高速化・冷房車両の整備などが、住民からの要望として多くありましたことから、本町といたしましては六把野駅、北大社駅は、駐輪場はあったものの道路が狭く、駐車場の整備も困難なことから、地域の方々のご理解もいただきまして、パークアンドライドの機能を持つ東員駅を整備をさせていただいたところでございます。

このことにより利便性の向上がなされ、利用者の増加につながっていると確信をいたしておるところでございます。

また、いなべ市におきましても同様の駅舎の統廃合がなされました。従いまして、ご提案のとおり、身近なところに駅があることは、住民にとりまして便利とは考えますが、新しく駅を増設することは非常に困難であると考えているところでございます。

また、オレンジバスの東西線の廃止につきましては、事業効果の観点から、苦渋の選択ではありましたが、決断をさせていただいたところでございます。

しかしながら今後さらに高齢化の進展が予想されますので、新しい交通手段について、引き続き検討・研究をさせていただきたいと考えております。

よろしくご理解のほど、お願いをいたします。

議長（山本 陽一郎君）          山口一成議員。

9番(山口 一成君) 阿下喜の駅から西桑名の駅まで13駅あるんですが、各駅の間、大体何分で運行されておるとお思いますか。

議長(山本 陽一郎君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) お答えをさせていただきます。

短い区間、特に桑名市の中は少し短いかとお思いますけど、3分から、長いところでは5分ぐらいかなとおっております。

議長(山本 陽一郎君) 山口一成議員。

9番(山口 一成君) 一応全部ほとんど3分なんですね。けれども東員駅から大泉駅までは6分あるんです。6分というような区間はどこもないんですよ。あと全部3分ばかりなんです。6分あるのなら1駅つくってもいいやないかというふうにお思うんですが、いかがですか。

議長(山本 陽一郎君) 佐藤均町長。

町長(佐藤 均君) お答えを申し上げます。

先ほどもお答弁させていただきましたように、当初いろいろと協議を重ねられて、駅舎の統廃合、これは高速化に向けてということで統合がなされたとお認識をさせていただいております。長いからつくればということなんですけど、駅舎等をつくるのは、その町の受け持つものもありますし、高速化も絡んでまいりますので、ここでどうこうは、はっきりとお申し上げることはできませんけど、基本的には先ほど申し上げましたように、非常に厳しいということでございます。

議長(山本 陽一郎君) 山口一成議員。

9番(山口 一成君) ここに時刻表があるんですよ。阿下喜の駅から西桑名の駅まで46分で走りますとお大きく書いてあるのです。46分で走るのは阿下喜発、朝8時4分の1本だけなんです。あとみんな、ほとんど1時間かかっているのです。特に下りの電車は1時間の余です。東員駅で待たんならん、楚原の駅でも待たんならん、大泉の駅でも待たんならんという状態なんです。時間は一番長いので1時間6分、1時間5分かかっておるのです。そんな状態の中で高速化と言って、46分で行くのは1本だけしかない。朝の8時4分だけなんです。阿下喜から桑名へ行くのは。あとは桑名へ行くのでも、ほとんど1時間近いんですね。そういうこ

とを考えたら、僕は6分間かかる間に1つぐらいあってもいいのではないかというふうに考えて発言しておるのですが、いかがですか。

議長（山本 陽一郎君） 佐藤均町長。

町長（佐藤 均君） お答えをさせていただきます。

駅の廃止というのは、東員町の場合は六把野と北大社ですね。いなべ市の場合は、廃止されたのは4駅ぐらいあります。先ほど距離的なことも申されました。しかしもっと長いところも現実あるんですね。麻生田と楚原の間の方が長いんです。上笠田の廃止をしたために。楚原と麻生田、上笠田を廃止されております。そこで3.7キロぐらいあるのです。東員町は東員と大泉が2.7キロです。だから東員町だけということではない。やはり高速化と費用対効果、そこはやはり乗車をされる方が少ないことから、そんなような状況をはじき出されたと思います。

桑名市内は一つも駅は廃止しておりません。星川の移動の駅はありますけど、廃止はしておりません。しかしそこは乗車の方が多い。多く乗られているということで廃止がなかったと私は思っております。そんなことで、費用対効果ということからも検討されたと認識をしておりますので、どうぞその辺はご理解をいただきたく思います。

議長（山本 陽一郎君） 山口一成議員。

9番（山口 一成君） 1年間に2市1町は5億4,580万円出しているんですね。西桑名の駅から北へ何年前から延長すると言っておるのですか。いまだにこれは延長されていないんですね。何が原因なんですか。その費用があったら、駅舎ぐらいどこでもつくれるのと違いますか。旧大木の駅はそのまま残ってます。田んぼも東員町の役場へ来ている人の名義になっている。そういうようなことを考えて、条件が十分そろっているのですよ。

猪名部という名前をつけたら東員町の宣伝になる。先ほど近藤議員がやかましく福祉のことを言われた。コミュニティバスと言わんと福祉バスというぐらいの気持ちで、僕は福祉バスのことを言いますが、電車のことについてはそれぐらいの認識があってもいいのではないかと。大社まつりの広告のビラがたくさん駅に貼ってあるのです。あしたはかごを持って駅舎の中で野菜を売るというような宣伝もされておるのです。宣伝せんことには乗ってもらえない。今年は乗車率がふえていないのです。ですから駅をつくれれば乗ると私は思います。

けれども乗る乗らないではなしに、公共交通というのは公益性を考えないといけないのです。もちろんこれは経済効果のことばかり言いますが、経済効果ではない。鉄道法から言ったら、バスでも公益性ということが一番に言われているのですよ。稲部地区だけなんで、電車の駅をなくし、バスも通らんようにする。南条や西条の人たちは東一色まで行って、いなべ市のバスに乗って総合病院に行くんですよ。そんな助け合いをできるんですから、そのところを考えて駅はどうやと、こう言っておるのです。再度答弁してください。

議長（山本 陽一郎君）          佐藤均町長。

町長（佐藤 均君）          お答えをさせていただきます。

東員駅に猪名部駅をというような当初のご質問につきましては、先ほどご答弁させていただきましたように、現在の状況では、新しい駅をつくるということは非常に困難であるということをご答弁させていただきました。

いろいろコミュニティバスも出されましたし、桑名駅の乗り入れのことにも触れられました。基本的に駅、そして駅前の駐輪場とか駐車場は、その市町が整備するのが基本でございます。基本的には桑名市への乗り入れは、桑名市がしていただくということでございます。だから我々は桑名市の方へ早く乗り入れてもらいたい。そうしなければ乗ってもらえないのやということは、申し上げさせていただいております。しかし桑名市の都合で延びていっておる。

先ほど桑名市の乗り入れについて、北勢線の各市町の出した50数億円の中から、西桑名駅の延伸の金で出されておるといのは55億円ですか、お金があったんですけど、そのうちの2億5,000万円は、桑名の乗り入れに使うということになっておるんです。2億5,000万円はまだ残っておるわけなんですけど、桑名市としては、自分ところが駅舎等をやりますので、旧国鉄というんですか、今は民間になってますけど、その敷地の購入とか、それから近鉄の絡みとか、いろいろのことによって延びていっておる。しかも政権が変わりましたので、当初の思っておった以上に厳しくなったということも聞いております。

しかしながら、早くしてもらわないと、私どもとしては北勢線に乗ってもらえないということで、これからも桑名市にお願いをするということで、させていただきますので、よろしくお願いをしたいと思います。

コミュニティバスについては、私もできることなら実証運行のままでということも考えたんですけど、これもやはり費用対効果は余りということも言われましたけ

ど、財政いろいろのことから考えて、費用対効果は最重点だと思って、苦渋の選択で廃止をさせていただいたということでございますので、どうぞご理解をいただきたく思います。

以上でございます。

議長（山本 陽一郎君）          山口一成議員。

9番（山口 一成君）          いなべ市はコミュニティバスを4月1日から運行するに当たって、はっきりと福祉バスと言っておるんです。時刻表をもらってきました。（山口議員時刻表を示す）これは員弁のルートです。員弁は員弁町のルート、これはいなべ市の北勢町のルートなんです。これは藤原のルートなんですね。これは大安町のルートなんです。このようにして緻密につくってみえるんです。目的をしっかりと持ってやってみえる。

東員町の大木の方々は100円出して、この間まで乗っていかれた。けれども今度はいなべ市は「ありがとう券」というのを出しているのです。1世帯に20枚ずつ「ありがとう券」というものを出しておるのですよ。出して100円は取らないのです。僕は東員町の人には「ありがとう券」がないから乗れないのかと言いましたら、「ありがとう券」がなくても乗れますと、はっきりと行政の方が答弁されておりました。ですから私は東員町の者ですが、バスに乗れますかと言ったら、バスに乗せてくれるそうです。

そういうような、それこそ先ほどの木村議員ではないが、友好提携の中の一つかもわかりませんけれども、このようなことをやってみるところを参考にして、しかも無料なんですね。ですから1回乗ったら1枚切るというようなことをやってあって、はっきりと福祉バスと言っておるんですから、そのようなことを考えてやってみてほしいなというふうに思っております。

もちろん、私が数えてみましたら、いなべ市管内で39カ所で発行しておるから、券がなくなったらそこへもらいに来てくださいと、このように言われております。

大変長くなったと思えますけれども、次に、もうちょっとありますので言います。

東員町は入札で2社に決めました。隣のいなべ市は、今年から社協がもとになってシルバー人材センターに全部移行して、運転手はシルバーの人たちで、必ず1種・2種の中型免許を持っておる人たちしか採用しないと、このように言っておるわけです。そうすると雇用の面についても生かされておるし、車検はどうするのやと聞



いたら、車検はいなべ市の業者からやると、こういうふうに言ってみえましたので、このような発想があるんですから、東員町も入札制度にしても、車検制度にしても、よそのところへみんな出しておる。東員町に落ちないということがありますので、これを参考にさせていただきたいなと思いますので、今後とも福祉バスについても、町民の目線で、町民の方を向いた行政をしていただきたいと思います。と思っております。

以上で私の質問を終わります。

ありがとうございました。